

「大阪市ミュージアムビジョン(案)」及び「ビジョンの実現にふさわしい経営形態」についてお寄せいただいたご意見要旨と本市の考え方

①「大阪市ミュージアムビジョン(案)」(以下、ビジョン案)に対するご意見

ご意見要旨	本市の考え方
4頁「めざす姿」 ・大阪の民度があがることを期待する。子どもの頃から、美術館、博物館が身近にある環境を作れたらいいと思う。	ビジョン案戦略7に掲げたとおり、こどもの学びを支援する施設となるよう努めてまいります。
5頁「アクションプラン5」 ・アウトソーシングする際に、アウトソーシング先で働く人たちの賃金が劣悪なものにならないよう注意していただきたい。	法令順守はもとより、ご指摘の点にも留意した業務の実施に努めてまいります。
5頁「アクションプラン10」 ・施設の老朽化対策、常設展のリニューアル等、施設の改修・整備にぜひ取り組んでいただきたい。	ビジョン案アクションプラン10や、その実現の要件(7頁)にお示した展示環境の改善、計画的な改修・整備のため、必要な投資をしてまいります。
6頁「アクションプラン13」 ・外国人観光客への広報に成功していないのではないか。アジア圏に向けた広報が必要。中国語・韓国語の日本ガイドブックへの情報提供を積極的に行ってほしい。	外国人観光客、なかでもアジア圏からの観光客が急増する中、その利用を促進するため、ご指摘の手法も含め、ビジョン案アクションプラン8の実現による発信力強化に努めてまいります。
・不登校、障がい、日本語が不得手な帰国子女、在住外国人などの子弟が学校教育へ不適応な時、社会教育施設でやんわりとした見守り、専門家としての助言の場であるのが市民のための施設ではないのか。 ・何故、森鷗外が国立東京博物館や上野公園を一部の方へ無償化したのか理解しているのか。 ・市民教育をせず、金儲けに次は突っ走るとは大胆である。 ・家庭教育が希薄な時代、博物館などによる専門家によるホンモノ教育を持続すべきでは。	ビジョン案12頁のビジョンの背景(4)で博物館の使命とした「教育・普及や市民協働」の観点に立ち、ビジョン案アクションプラン22・23でお示したとおり、多様な学習ニーズや人々にお応えできる事業実施や環境整備に努めてまいります。 また、ビジョン案アクションプラン19にお示した「本物を通じて、こどもが探究心を抱き、感動が糧となるような」機会の提供やメニューの充実に努めてまいります。
・アクションプランがどこかの田舎の都市のような記載。色々書いてあるが結局中身が感じられない。	策定にあたっては、ビジョン案で背景としての都市大阪の伝統(11頁)や、本市を取り巻く環境の変化(10頁)、さらに本市博物館の使命や要件(12・13頁)も考慮して、策定いたしました。
・内容が形態に関わる話ばかりで内向きすぎる。世界の都市間競争に打ち勝つと言っておきながら掛け声倒れ。海外他都市の分析等すらない。意欲が感じられない。運営のあり方には関係ないとも言いたいのだろうか。	ミュージアムビジョンは、対象施設の実績や現状分析を中心に、次代のミュージアムとして、今後、おおむね10年でめざす姿と運営のあり方を検討したものです。今後、ご指摘の海外の他都市も視野に、ビジョンの実現に努めてまいります。
・独立行政法人化するための言い訳が記載されているだけのよう思う。	独立行政法人化については、ミュージアムビジョンに掲げるアクションプラン実現に求められる要件を基に、外部有識者からのご意見も踏まえ、判断いたしました。
・現状や背景の記載はあるが、現状の博物館行政の問題意識がまったく書かれていない(何が実現できなかったのかなど)。	ミュージアムビジョンについては、別途お示した「ビジョンの実現にふさわしい経営形態」の2頁を、現状の基本的な課題として認識した上で策定いたしました。
・大阪城天守閣はなぜ書かれていないのか。他の行政主体により運営されているからとの答えが返ってきそうだが、それなら連携の方法など書くべきだろう。天守閣博物館を抜きにして博物館行政が語れるのか。	ご指摘の大阪城天守閣とともに、本市の設置した他の館園、あるいはそれ以外の館園とも、ビジョン案アクションプラン2や15をはじめとした連携を、その具体的方策の検討も含め、進めてまいります。

「対象とするミュージアム」 ・この6施設[博物館協会＋科学振興協会]のみの理由が明記されていないが、なぜか？ ・大阪市立科学館が入ることについては賛成である。ただし、明確な理由があまりよく分らない。 ・博物館協会の博物館・美術館情報には他に大阪城天守閣・天王寺動物園・大阪くらしの今昔館が載っている。この3施設が外されている理由は恐らくだが、動物園は生き物を扱うために性質が違うからであるし、今昔館は大阪市住まい公社に属する性質の違いである。大阪城天守閣はよく分からないが、今昔館のようにはっきりしていないと小耳にはさんだことはある。 ・科学館が【地方行政法人化＋経営統合】に入るのは博物館と位置付けられていることが理由なのか。場所の重要性も理解されてのことと思う。場所を考えると他の施設も入れるべきと考える。 この6館はすべて公園と一体となっている。中之島四丁目もそういったような計画だったはずである。そして、そのことを踏まえるとそれぞれの公園ごとに4ヶ所もしくは5ヶ所と考えることができる。 ・偶然来ただけのあまり関心のない人は合同企画展をしても何ヶ所も見回るとは思えない。博物館等の施設で入念に見ている人は気力や時間をかなり使う。1ヶ所ならどちらでも余裕を持って楽しく過ごせる。 ・半径5kmの中心近くが天王寺公園である。ここには美術館だけでなく、動物園も茶臼山もある。 ・博物館等では講堂や食堂を備えているべきだそうである。現在の美術館では大小二つの講堂は講堂としては使えず、別の部屋を代用している。食堂もてんしぱができたためか営業をやめた。そして動物園では101計画により天王寺側入り口に講堂を新設しようとしている。 ・また、茶臼山の歴史的重要性は知られている。ただ古墳であったかどうか等の未知の要素もあるうえ『真田丸』の影響もあり扱い一つで大きく変わる。 ・天王寺公園と新世界の間には上町断層があり地域全体で考えて対応すべき課題である。 ・過去の歴史に照らし合わせても天王寺公園を経営統合して一体であるべきではないかと考える。 ・大阪城天守閣についても同様である。ここの講演会等が地元である場合、通常は歴史博物館である。他にも大坂本願寺等の未知の可能性があるし、周辺に断層があることや歴史的な面も似ている。 ・大阪人権博物館はどうされるおつもりか。大阪市ではヘイトスピーチの条例が通ったが、その陰で人権博物館を否定する方向に進んでいては言論の自由を否定するための条例と思われるであろう。もし無くなれば、大阪の汚点になるのではないか。 ・人権博物館や大阪城公園内にある大阪国際平和センターは負の側面を扱う博物館である。放っておいても来館者は増えないのではないか。 ・これらの施設も考えていただけないか。	対象施設について、市の設置する施設の中から、文化施策にかかわる5つの既存館と、新たに建設予定の新美術館といたしました。（なお、大阪城天守閣については、平成27年度から、民間事業者による20年間の指定管理を導入しているため、経営統合の対象とすることはできません。） 合同企画展については、複数の館が協力する一つの展覧会を想定していますので、一カ所でご覧いただけます。また、複数館をご覧いただける共通券については、使用期限に配慮した設定での企画・販売を検討してまいります。 講堂や食堂については、ビジョン案アクションプラン10に掲げたとおり、計画的な施設の改修・整備に努めてまいります。 ビジョン案アクションプラン15では近隣の文化財等資源の活用や公的施設との連携を、別添の「ビジョンの実現にふさわしい経営形態」（以下、別添経営形態）の7頁では複数館の経営統合による施設や設備等の相互利用を掲げており、その実現に努めてまいります。 ビジョン案アクションプラン2に掲げたとおり、対象館だけではなく、他のミュージアムや他のさまざまな主体とも連携した事業の展開に努めてまいります。
付編13頁「経営とマネジメント」 ・大阪市立の博物館と科学館、美術館を統合して経営効率化をはかることは賛成であるが、単なる統合だけでは駄目。経営感覚をしっかりと持った人材を投入し、どうすれば集客数が増えるのか、収入が増えるのかをきっちりと考えるべき。現状、来場者の属性分析などのマーケティングがちゃんと行われているのか疑問。	経営努力やマネジメントについては、ビジョン案13頁の3)で博物館の要件として認識するとともに、別添経営形態の3頁でもお示したとおり、トップのマネジメントの下で、「経営」の実現が急務と考えます。あわせて、ご指摘の人材の確保や属性分析も含め、鋭意、取り組んでまいります。

②「ビジョンの実現にふさわしい経営形態」(以下、別添経営形態)に対するご意見

ご意見要旨	本市の考え方
・経営改善の記載があるが、基本的に赤字が通常の博物館でサービスを向上させて経営改善するという理屈がよくわからない。その二つは両立するのか。サービス向上と経営改善(経費削減)のどちらを優先するのかの理念くらいは責任もって考えておくべきではないか。(大阪市の文化行政の置かれた状況からすればサービス向上を優先すべきだとは思うが)	別添経営形態2頁でもお示ししたとおり、利用者サービスの低下(経費削減の限界)が課題と考えており、その解決に向け、同3頁の戦略的投資とともに、法人の自主性の発揮や機動性の確保ができる「経営」を実現してまいります。
3頁 「めざす方向、利用者目線のサービス、「経営」の実現」 ・臨機応変な開館時間の延長や開館日の設定はありがたい。 ・4時半最終入館では、仕事をしている者にとって平日は行けず、土日に行かざるをえない。 ・大阪市からの予算額にもよるかと思うが、独立して経営を続けていただくためには、収入源である入場料金を見直した方がよいのではないかと思う。例えば「障がい者とその介助者無料」は、介助者は付き添いなので無料で、障がい者は通常料金の半額という考え方もあるのではないか(中学生以下無料も含めて)。	利用者目線のサービス実現に努めますとともに、料金については、ご指摘も踏まえつつ、市の設置施設として利用者のご理解をいただける金額を念頭に、検討してまいります。
3頁 1「大規模展」 ・「メディア等と連携した大規模展等」とあるが、単なる集客目的に走ることなく、大規模展でも各館にふさわしい質を今後も確保すべきである。また、集客面では弱くても、学芸員の調査研究から生み出される独自展示も積極的に企画すべきである。	ビジョン案9頁のあゆみと実績の5)に記載した「収集品とその調査・研究の成果を総体として公開」することを基本に、大規模展覧会の誘致に必要な事業の継続性や専門人材の確保等に努めてまいります。
4頁 「地方独法+PFI」 ・どの部分をPFIにするのか、この資料からは不明である。「地方独法」または「地方独法+PFI」が現時点での候補と理解するが、PFIを使うのならどの部分かを明らかにしてほしい。	PFI手法を導入する場合、別添経営形態5頁の【地方独法化案】欄にあるような「接客・案内、警備・清掃、維持・管理、保守・点検」あるいは「飲食・ショップ」等を候補に、各館の特性や事情を考慮した導入を検討してまいります。
4頁 「運営費交付金」 ・博物館は独立採算では運営できない恒久機関であることを踏まえ、設置者は十分な運営費交付金を交付すべきであり、また、後年度に安易な減額を行うべきではない。	別添経営形態2頁でもお示ししたとおり、経費削減が限界という課題認識の下、戦略的投資を含めたサービス向上に向け、設置者責任を果たしてまいります。
6頁 目標4「業務改善」 ・業務改善に関して、過剰に煩雑な評価制度にならないよう、また右肩上がりにより業績を求め続けることには限界があるので、学芸員、事務職員の過労を招かず、長期的スパンで無理なく働けるような配慮が必要である。	本市の他業種や国の同業の法人の先例に学びつつ、適切な計画や評価に基づく業務改善の仕組みづくりに努めてまいります。
7頁 「経営統合」 ・経営統合しただけでは目標は達成できない。総務や経理などの事務部門はリストラして最小限の人員で運営すべき。新組織ではマーケティングの専門家をトップに置き、きっちりとした来場者分析のもと、収入増、来場者増の対策を図っていくべき。	別添経営形態の7頁にある「共通事務(給与・契約)の集約(システム化)による効率化」を図るとともに、ビジョン案アクションプラン8にもあるように、民間事業者の活用や人材の機動的な登用を通じて、マーケティングや広報部門等の強化による来場者や収入の増加を図ってまいります。

7頁 目標2「図書等」 ・図書等文献資料のアーカイブ化や共同利用に関しては、市立図書館との緊密な連携を行うか、または複数館の一元化に伴い専門司書を雇用し、各館が所有する文献資料の効率的なデータベース化を行い、オンライン検索できるようにすべきである。また、館の業務に支障のない範囲で市民が閲覧できる方法を検討すべきである。設置者はこうした資料公開のための費用負担を行うべきである。	図書等のアーカイブ化や共同利用については、アクションプラン2に基づき、図書館をはじめ他の施設とも連携し、相互に活用できるよう努めてまいります。 また、既に一部の館で利用可能なオンライン検索についても、継続と拡充を図るよう努めてまいります。
7頁 目標2「ガバナンスの強化」 ・ガバナンスの強化に関しては、地方独立行政法人になった場合、理事・監事を他の機関が監督する仕組みがない点が不安である。一般財団法人の場合、理事・監事の監督機関である評議員会があるが、地方独立行政法人では、地方独立行政法人評価委員会が役員の業務執行をどの程度、監視しうるのだろうか。博物館の現場の意見を役員の意思決定に反映させうる仕組みを、最初の制度設計の段階で工夫すべきである。また理事長には博物館事業に関して高度な知識及び経験を有する者を任命すべきである。	地方独立行政法人制度では、法人は毎年度、業務の実績について、評価委員会の評価を受けなければならない。評価委員会は、その結果の通知とともに、必要があると認めた場合には、法人に対して業務運営の改善その他の勧告を行うことができます（地方独立行政法人法第28条第3項）。また、この場合、評価委員会は通知や勧告を設立団体の長に報告するとともに、公表することから、監視の役割に応えることになります。 ご指摘の、現場の意見を役員の意思決定に反映させる仕組みづくりや、博物館事業を適切に進められる理事長の任命に向けて検討を進めてまいります。
9頁 「事業魅力の向上」 ・「成果に応じた処遇」とあるが、人間は生身であり、ケガも病気もする生き物である。長期的な視野でみれば、ゆとりを持ち協力的な職場環境が全体のパフォーマンスを向上させ、良好な市民サービスを生み出すはずである。切磋琢磨は必要だが、いたずらに競争的な環境にさらすべきではないと考える。	地方独立行政法人制度では、（一般地方独立行政法人の）職員の給与は、勤務成績が考慮されるものでなければならない（地方独立行政法人法第57条）等の規定にも鑑み、「成果に応じた処遇も可能」とするものですが、ご指摘のとおり、パフォーマンスの低下を来すことのないような運用方法を検討してまいります。

③その他、博物館施設に関するご意見

大阪歴史博物館、大阪市立美術館、大阪市立東洋陶磁美術館、大阪市立自然史博物館、大阪市立科学館、今後整備予定の新美術館について、期待することなど

ご意見要旨	本市の考え方
新美術館に期待すること ・音声ガイドサービスを導入してほしい。 ・文字情報より音声情報の方が理解しやすい満足できる音声ガイドはリピーターも増大できる。 ・結果として来館者、主催者双方がWIN-WINの関係になれると思う。 ・主催者は次の企画立案も立てやすくなると思うし、また急増する外国人にも対応できると思う。	新しい美術館につきましては、顧客目線を重視し利用者サービスに優れた美術館をめざしております。ご指摘の音声ガイドサービスにつきましても、来館者の満足度を向上するうえで重要であると考えており、積極的に導入を検討してまいります。
・全館共通入場券や全館年間パスを販売すれば集客効果が期待でき、より集約や一元化、共有によるサービスも向上されて、経営統合のメリットがより一層拡大するものと考える。	別添経営形態9頁の期待される効果でもお示した年間パスや割引券とともに、ご指摘の券種についても、導入を検討してまいります。

・最近都市部にサル、クマ等野生動物が現われ人体に危害を加えるという報告がなされている。そこで大阪市立自然史博物館には大阪近隣地域の野生動物の生息状況を動物園と共に調査されてその結果を対策に生かし又教育活動に積極的にフィードバックされるように期待する。	大阪府では、今のところクマが市街地に現れる事態は起きておらず、サルも含め、他府県ほどは大きな問題とはなっておりません。 大阪府下のサルやクマなどへの対応は大阪府の所管で、府立環境農林水産総合研究所には哺乳類を専門とするスタッフがあり、現在、府下の中大型哺乳類の生息状況調査に積極的に取り組んでおられます。 自然史博物館としても、今後必要に応じて府立環境農林水産総合研究所と連携しつつ、大阪府における人と中大型哺乳類の共存について、普及教育面で関わってまいります。
・大阪市立美術館においては、天王寺公園てんしば、天王寺動物園に隣接しているにもかかわらず、てんしばからのアクセス表示も少ない。公園、動物園、美術館三位一体の運営を進めるべきではないかと思う。	ビジョン案アクションプラン15にも掲げたとおり、近隣施設との連携を、ご指摘のサイン等の整備も含め進めてまいります。
・大阪市立自然史博物館の施設が老朽化しています。常設展示のリニューアル、講堂の椅子の改修等が必要である。	ビジョン案アクションプラン10に掲げた「展示環境の改善、収蔵庫や付帯施設など、計画的な施設の改修・整備」に努めてまいります。
・大阪市立自然史博物館のショップが今年度から変わり、従来のショップが持っていた品揃えの専門性が失われた。単なる価格競争ではなく、総合評価型の入札制度等を採用すべきだと思う。	利用者サービスの向上をめざしつつ、専門性や学びの要請にも応えられるショップの選定に努めてまいります。
・大阪市立美術館の建物が老朽化し、全体として古くて暗い印象を受ける。建物全体のリノベーション等を考える時期ではないか。	ビジョン案アクションプラン10の実現とともに、アクションプラン4で掲げた歴史的な建築を活用する面からも、改修(再生)の準備を進めてまいります。
・総合的なミュージアムショップがあるとありがたいです。 ・歴史博物館での『関西大学のちから』が面白かったのでまた合同企画展を期待している。	ビジョン案アクションプラン18に掲げたとおり、民間企業との共同も視野に、魅力的なショップの実現を検討してまいります。 また、ご指摘の合同企画についても、複数館の経営統合のメリットを引き出す一環として、新たな企画の実現に向けて検討してまいります。
・自由で柔軟な発想のもと、機動的に館を運営してほしい。	ビジョン案7頁のアクションプランの要件にお示した事項が実現できる館運営をめざしてまいります。